慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	VI Scount Bryce: The study of American history
Sub Title	
Author	恒松, 安夫(Tsunematsu Yasuo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.2, No.1 (1922. 11) ,p.158- 160
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19221100-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

c) A Short Ancient History, 1915

d) The Middle Period of European History, 1915

となつたが、勿論内容に於て相違する處を見なかつた。然るに後cの部分が頁數を倍加し、daが合綴增補されて右の二書をなすに至つた。

4. a Breasted: Ancient Times, 1916 Pp. 742

b) Robinson and Beard: Medieval and Modern Times, 1916 Pp. 777. 1919 ed. Pp. 788

これは本史書中の詳密なる最大の形である。他書に於て簡約された部分は本書によつて大抵明かにされ得る。其後 3c, 4a は更にコンデンスされて最も輕便なる上古史概說となつた。

c) Breasted: Survey of the Ancient World, 1919 P. p 417

是である。又別に(三)のマウトランズには次の小册子を追補して世界大戰の記事を加ふるに至つた。

d) The Last Decade of European History and Great War, Pp 76,

其後に出來たのが、表題の二書である。斯くして世界大戰後全く面目を一新するに至つた本書の内容が最も時代に適應せる良教科書である事は爰に多言を要しないのであらう。

余は往年本書の前身アウトラインズ第一卷について初めて西洋史の授業を中學に試みた關係上、本書の改良發展を特に慶ぶものである。因に、本年再び右の新著を慶應義塾大學豫科の教本として採用するに當り、學習上思はしからざる邦譯の出版防止の目的を以て、その出版書肆が快く反譯權を當大學に附與せられた事は同書肆に對して吾人の感謝する所である。（岡崎萬里）

VI Bryce: The Study of American History. New York, 1922. Pp. 118.

本書に收むる一編は本年一月長逝したジェームス・ブライス卿が昨年六月二十七日英國に於ける米國史の研究を奬勵するためにサー・ジョージワッソンの寄附によつて生れた講座の創立式が倫敦のアンジョンハウスに於て行はれた際に試みた講演の收錄である。本講演の目的を一言にして云ふことを許されるならばそれは民族の源を等しくしてゐる英米兩國民の血族的關係が如何に根深いものであり重要なものであるかを歷史の光に照合して英國民に悟らしめ而して米國史研究の必要を感得せしめやうとするに在るといへやう。

卿は劈頭に於て米國史とは何を意味するのか卽ち米國史とは何時に始まるものかとの問を投じて自らこれが解答を與えてゐる。曰く「北米に移住した人々の歷史は神話や詩歌の中に或はウォーデンやッノールやフレヤの禮拜の中にまたベオヴルフの古詩の中に在るものを除いては何等その地の記錄とてはない遙かな時代に遡てホルスタインや東フリヂヤの森林や海岸に發生した」（一七一八頁）と卿はこの時代を以つてアメリカ史發展の第一階段となしその第二階段は北歐の諸種族中の或るものが英國に侵入を始め遂にその島嶼に英帝國の基礎をかためた時代であるとなし第三階

段は英國民の新大陸移住の時代であるとしてゐる。眞の米國史のはかゝる階段を遡つて研究して始めて得られるのであつて決して原住民の歴史を研究することによつて得られるものでないと云つてゐる。

次に歐羅巴主として英國から移住して來た移住民が如何なる影響を蒙つて新しい住居に於て歐羅巴人とは全く別個のアメリカ人となつたかに就いて敍べてゐる。兩大陸の氣候の相違が如何に移住民の性格と生活樣式とに變化を與えたか開拓者の嘗めねばならぬ總ゆる困難が如何に彼等の思想に影響を與へたか文明の恩澤に浴することの薄いために如何に彼等は自助と努力とを必要としたか、此等の事柄は悉く彼等に社會的平等を齎らし斯くて今日在るが如きアメリカ獨特の共和政治の搖藍を形造つたものであると

更に進んで卿はアメリカが戰爭の手段に訴へて、英國から政治上の獨立を計つたことを遺憾としてゐる。勿論卿は戰爭といふ最後の手段が、アメリカに獨立の歩を早めた點はこれを認めてゐるけれども、これがために英米兩國の間に長い間に亘つて感情の融和を缺いたことは、兩國にとつて不幸であつたと叙べ、アメリカの國民性中にイギリスの傳統が存在を續けてゐること、この傳統が更に他の影響を受けて他の方面に向つて絶えず進みつゝあることを、而してアメリカの國民性が如何にその歴史上に於て相遇した危機を處理し得たか、三四の實例によつて說き、進んで英米の政治制度の長短を擧げて比較し兩國の國情の相違を示し、更にアメリカの外交關係を處理する中央政府の組織を說明し、聯邦憲法の實力を試練した三個の場合を擧げ、南北戰爭に關してはこれが原因の研究によつて暗示される二個の教訓、卽ち人間性の永久的性癖を無視することの危險、過去に於て苦しめられた人々に對する抽象的理論と感情的同情とのために自然の教訓を無視したための危險を擧示してゐる。南北戰爭の結果は一個の大なる失態であつたとともに、更に一個の至上叡智の働をも示し、却つて國民的結合の機を引き締めたと叙べ、更にアメリカ人が長い間自由平等の旗幟を堂々と揭げ來つたことに對して、某大な讃辭を呈してゐる。結論として卿は、各國民は他國の經驗によつて自國を益さうとしてゐるのであるが、英米兩國が他の何れの國々よりも相互の經驗によつてより大なる利益を博し得るのは、兩國の制度、社會生活、並びに、國民の人生觀が同じ基礎の上に樹立されて、根本的類似を有すること、兩國民が或る問題を論議する場合に、或る道德的定論を共通の出發點としてとることが出來ること等によると論じ、而して他國の經驗をよりよく理解するには、その國の歴史を最もよく理解しなければならない「歴史は人間性をその研究の目的としてゐる人間が考へ云ひ行つたことの記錄である。歴史はその光によつて吾人が行爲に現はれた人間性を見、人間や國民の性格に對する吾人の理解に應じて、事件の原因や意義や結果を理解出來る燈火である」（七八頁）とて英國人に米國史の研究を力說し、最後の數頁に於て現在及び將來の世界に於ける英語國民の使命を論じて講演を終つてゐる。

この講演は僅かに一回試みられたものであるが故に、極めて簡單なものであつて、本文は僅々八十頁足らずのものである、然もその內容に至つては、卿の優れた史眼と卓拔した政治的考察とに

まつて、米國史上最も重要なる問題を自由自在に論究し盡したる點は敬服に値する。吾人はこの著中屢々發見するアウ[illegible]人種の歴史觀によつて、大いに得る所あると共に、更に彼が英國人に對して米國史研究の必要を力說する所は我々日本人にとつても大い傾聽に値する點と思はれる。（恒松安夫）

歴史に關する異論に就いて

歴史の如何なるものであるかは、大抵誰も一通りは知つてゐさうで、實はあまりよく知られてゐない。それ故之に關して往々見當違ひの、そして而も頗る獨斷的の議論を見受ける事があります。それは如何にして起るかと云ふと、內田博士の尊敬すべき意見によると、少なくとも二つの理由があるやうです。『その一つは錯々の人が或る理想と現實とを能く區別致さぬ所から起りますので、卽ち或る人は斯樣でなければならぬと思ふものを描いてこれが歴史である、これにあてはまらぬものは歴史でないと考へる。』之は現實の歴史を無視して哲學的思辯を好まれる人々の間によく見受けるやうであります。『又他の人は是迄現にあるものを標準とし、理想を描くこと遠いものでも、現に存する歴史が卽ち歴史であるとして論を立つる。』史家の間に行はるゝ史學史（Historiography）といふのは、この變遷を記したもので、例へばモリッ、リッターの著はしました書名（Die Entwicklung der Geschichtswissenschaft an den führenden Werken betrachtet, 1919）の如きよく之を證據立てゝ居ります。博士は更に語を進めて、『かやうにして同じく歴史の何たるかを論ずるに當り、或る人は歴史の理想に就き、他の人は之れに反し是迄ある歴史の如何なるものたるかを述ぶるより、自然其の間に見解の相違を來たすのであらうと存じます。また第二には歴史といふ語が實際屢々色々の異つた意味に用ひらるるからして、歴史の何たる[illegible]く、之が爲めに生じた見解の相違もあるやうである。』といはれて居ります。之れは大に味ふべき言ではないでせうか。

（內田銀藏博士著史學理論より、あさき生）

前號主要正誤

埃及學の創立中一〇八頁下段十行目
楔形文字を楔形文字に改め、同、十一行目「大學」を省く。
一五二頁「維新前の宮廷生活」正誤表中十五行目御門掌侍は衛門掌侍の誤。
「古代支那民族の祖先祭祀」中六七頁
宵の明星は曉の明星に改む。